令和３年度　北海道白糠養護学校　学校評価の結果

令和３年１２月１５日　教頭

Ａ：とてもできている（４点)、Ｂ：ほぼできている（３点)、Ｃ：あまりできていない（２点）Ｄ：できていない（１点）　平均３．０点を基準とする。

１　教職員による学校評価

どの項目も基準を超えており、職員の取り組みの成果が反映されている。学校として、さらに前進していくために、今年度の反省を生かしていく方策が必要となる。

【教職員①】比較的評価が高かった項目（平均点３．４以上）

5	教育環境の整備等	【３．５点】
16	危機管理体制の充実	【３．４点】
17	体罰防止	【３．５点】
24	いじめ等の不適切な行動への対応	【３．４点】

【教職員②】改善を要すると考える項目（平均点３．０未満）

該当項目なし

（１）　アンケートの結果から

今年度から、昨年度より大幅に項目を減らし、該当しない項目についての意見は、自由記述欄に記入する方法に変更した。また、項目を減らしたことにより、経年変化についての比較は行っていない。各項目について、基準点を下回る項目はなかったが、更なる改善を目指したい。

（２）　自由記述について

４つの意見が出されている。かっこ内の関係部署を中心に話題にしてもらい、年度末反省等で説明をお願いしたい。

・中高一貫校のような体制は作れないのでしょうか。高等部は、人手が足りないこともあります。人員を上手く使える体制作りをしてほしいです。(各学部・教務部)

・定時退勤日を、水曜日設定にしたら良いと思う。水曜日は、生徒の下校時間が早く、その後の業務の時間が確保しやすいため、定時退勤できると思います。(各学部・管理職)

・職員数が減っているので、業務内容の精選と効率化を今以上に心掛けるとともに、一人一人が自分の担当業務を責任持って取り組むことが必要になると考えます。(各学部・分掌)

・学園との連絡調整会議は、現状の内容であれば紙面連絡や Zoom でもよいのではと思います。(管理職)

２　保護者・学園職員による学校評価

保護者・学園職員による評価については、多くの項目で基準とする点数を超えている。また、保護者からの回答数は、学園職員の生徒の担当の方の回答を含めた。その中でも、評価が昨年度よりに比べて低くなった項目もあることから、指摘を受けた部分は真摯に反省し、次年度へ生かす必要がある。

【保護者・学園職員①】比較的評価が高かった項目（平均点３．４以上）

＜保護者＞

1	健康安全	【３．６点】
2	災害等の安全対策、感染症対策	【３．９点】
3	授業実践	【３．５点】
4	個別の教育支援計画	【３．６点】
6	個別の指導計画	【３．４点】
7	個別と集団を組み合わせた授業	【３．７点】
8	人権を意識した指導	【３．８点】
9	教員同士が協力し合う教育活動	【３．５点】
10	事故等の未然防止	【３．４点】
11	個別の指導計画（目標・評価・授業等）	【３．６点】
12	個別の指導計画（目標・評価・説明等）	【３．７点】
15	学校の情報発信（学校便り・ホームページ等）	【３．６点】

＜学園職員＞

1	健康安全	【３．４点】
11	個別の指導計画（目標・評価・授業等）	【３．４点】
12	個別の指導計画（目標・評価・授業等）	【３．５点】

【保護者・学園職員②】昨年に比べ評価が高くなった項目（平均点０．３以上向上）

＜保護者＞

8	人権を意識した指導	【３．５点→３．８点】
15	学校の情報発信（学校便り・ホームページ等）	【２．８点→３．６点】

【保護者・学園職員③】改善を要すると考える項目（平均点３．０未満）

＜学園職員＞

9	教員同士が協力し合う教育活動	【３．１点→２．９点】（各学部）

【保護者・学園職員④】昨年に比べ評価が低くなった項目（平均点０．３以上下落）

＜保護者＞

3	授業実践	【３．８→３．４点】
5	個別の指導計画の目標設定	【４．０→３．２点】
10	事故等の未然防止	【３．８→３．３点】
13	学園との連携	【３．５→３．０点】
14	医療機関や福祉機関等との連携	【３．５→３．２点】

＜学園職員＞

2	災害等の安全対策、感染症対策	【３．７→３．３点】

（１）9　教員同士が協力し合う教育活動　【３．１点→２．９点】（各学部）

学園職員が、このような印象を持った理由はわからないが、おそらく教員間の連携不足を感じる場面があったのかもしれない。日常の教員間の連絡・報告・相談や学園との情報共有等、今一度振り返ってみていはどうか。

（２）その他

保護者・学園職員による評価の中で、昨年度より低くなった項目として、個別の指導計画や各機関との連携、学校の危機管理等多岐に渡っている。本校では、長引く新型コロナ対策を始め、防災対策や新学習指導要領の確実な実施等に取り組んでいる。それらの取り組みについて、保護者・学園職員にどのように伝えて、理解を深めてもらえるかが大切ではないか。